

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500599		
法人名	株式会社 ボーベルカンパニー		
事業所名	グループホーム ひだまりの家 (1階くつろぎ)		
所在地	愛知県尾張旭市旭ヶ丘町旭ヶ丘5756の2		
自己評価作成日	平成25年 9月19日	評価結果市町村受理日	平成26年 1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JivgyosyoCd=2374500599-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成25年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな立地を活かして、花や野菜を育てたり、近所を散歩したりと、季節の移り変わりを肌で感じながら毎日を過ごしていただいています。
お花見や夏まつり、紅葉狩りやもちつきなど季節の行事を行っており、その中でも、夏まつりやもちつきなどは、近隣の方々もお誘いし、いっしょに楽しんでいただいています。
利用者のご家族とも、行事に参加していただいたり、食事会などを開いたりして、交流の機会を持っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム敷地内の畑では、利用者が職員と協力しつつ園芸を楽しんでいる。季節の野菜やイモ掘りなど、自然に触れる機会がある。
ホームで開催する行事をホーム入口掲示板に掲示して、地域からの参加を呼び掛けている。その結果、もちつき大会には地域の中学生在が参加して、利用者との交流につながっている。家族アンケートからも、「地域との交流が始まっている」との声が上がっている。
例年の課題となっている、「災害時の避難」については具体的な進展は乏しい。ホーム内にある階段が来訪者には分かりにくいので、階段の表示を明確にすることや、地域へ協力を依頼することなど、今後の取り組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「我が家のようにくつろげる、やすらぎのある生活を支援する」という、施設の理念を常に意識し、実践できるように心掛けています。	利用者が安心して暮らせるように、生活において不自由な事を職員が支援している。また、入居時には、家族へホームの方針や理念を説明し、納得した上で契約できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏まつりなどの行事に、地域の方々にも参加していただいたり、地域の野外清掃へ参加するなど、交流の機会を持つようにしています。	ホームで開催する行事をホーム前の掲示板に掲示して、地域へ広報している。今年度は、掲示板を見た中学生がもちつき大会に参加し、利用者と一緒に交流した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の短大の実習生の受け入れや、学生との交流、オープンキャンパスでの施設見学。中学校の職場体験学習の受け入れなどを行うことで、地域への認知症理解への取り組みを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、運営報告会を行ったり、各種行事と併せて開催する際にはアンケートを取るなどして、意見を聞きとれるようにしている。	市の条例で3カ月に1度の開催に変更になった。市役所職員からは、「運営推進会議の議事録を詳しく書くように」という意見があり、議事録の改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際や、市役所窓口にて相談や情報交換などを行い、連携に努めている。	市からホームへ、研修の案内が届いている。市役所や地域包括支援センターへは、空室のお知らせなどと共にホームの現状を話す機会がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体構想に関するチェックシートを使用し、カンファレンスを行いました。それにより、全職員に身体拘束について改めて見つめ直してもらい、身体拘束を行わないケアが当たり前前のケアだという認識を理解してもらっている。	職員が中心となって、身体拘束の勉強会を開催した。2階利用者が外に出るときはエレベーターと階段室に施錠があるため、職員が付き添い見守りの介助としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束とあわせて、どのような行為が虐待にあたるのかを再度確認を行い、幅広く虐待というものをとらえて、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の対象となる利用者がいないため、実際には支援は行っていないが、研修への参加などで学ぶ機会を持って、いつでも対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時以外にも、疑問点には応えるようにしている。また、運営報告会等で必要事項については報告を行い、理解を得られるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、各種行事、面会時など、常に意見・要望を表せるようにしており、そこで聞かれた意見を運営に反映できるように努めている。	家族の面会の際には、職員から日頃の状況を伝えるようしている。行事の後にはアンケートを行い、次の開催時に反映させる取り組みがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、申送り時に限らず、思った時にいつでも意見や提案をできるようにしている。	申し送り時には、全出勤者が参加して利用者の状態について情報共有している。管理者は会議で上がった意見を大切にして、支援に活かすよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より、代表者へ報告を行っており、職場環境・条件の整備に反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度より、法人内での勉強会や研修の実施に力を入れており、法人外の研修にも参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設への研修を行ったり、他法人の施設への見学等を行い、交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの聞き取りや、ご本人とのコミュニケーションを図ることにより、要望をサービスにつなげ、安心して生活していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での問い合わせや、見学に来られた段階から、要望や困っていることを聞き取り、入居後の不安を少しでも軽減できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、入居時に、ご本人・ご家族が必要としている支援を聞き取り、どのように支援していくのかを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の要望をよく聞き、ご本人の意思を第一とするように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来るきっかけとなるよう、ご家族が参加できるような行事を計画したり、電話・手紙等での現況報告を行い、共に考えてケアを実践できるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ通えるように支援をしたり、外出の際に、思い出のある道や場所へ行ったりと、その方のこの地域との関係を継続できるように努めている。	馴染みのある美容院へ通う利用者や、家族の協力で自宅へ様子を見に出かける利用者等の事例がある。喫茶店に出かけ、若い頃の思い出話を語る利用者がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内での関係の支援はもとより、ユニット間での関わりを持てるよう、行事の際や普段の生活でも交流を持てるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから積極的に関係を継続させることはないが、良好な関係を継続しているご家族もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自身で意思を表せる方には、出来る限り希望を聞き入れるよう努めています。ご自分では表せない方には、ご家族の話などから、できるだけ本人本位となるよう検討している。	介護記録の中にエピソード欄を作成して、利用者の声を聞く仕組みを作った。これにより、職員が利用者と自発的な交流を図る機会が増えている。つかんだ意向を職員間で申し送り、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の生活歴を把握するため、ご家族に向けて、ご利用者の昔の様子についてのアンケートを行い、ケアに反映できるよう試みている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の状況に合わせて、食事時間の調整や嗜好に合わせたおやつ等の提供、その日の活動をその日の体調に合わせ、できないことを把握して支援を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画の変更まで行かない、比較的軽微なケア方法の変更なども、ユニットスタッフで検討し、ご家族とも相談しながら、ご本人のより良い生活の為に意見を出し合っている。	4月から新たに利用者生活歴アンケートを実施し、家族の協力を得て、多くの情報収集が可能となった。全職員が情報を共有して、日々の支援に活かしている。	生活歴アンケートを活用して、介護計画立案の取り組み事例を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録表に、その日の気づきやご利用者のつぶやきなどを記入する欄を設け、職員間で情報の共有が行えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や入退院時、買い物等の送迎、付き添いや代行を行ったりと、できる限りの要望にこたえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張理美容や訪問マッサージの利用。ボランティアの演奏会など地域のサービス等を活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医以外に、かかりつけのクリニックや眼科があるご利用者には、受診の付き添いや送迎を実施しており、情報提供を行っている。	同法人の他事業所へ往診に来る医者がかかりつけ医という利用者には、ホーム職員が送迎している。受診後には、結果を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員がいるため、医療的な面では看護職を中心に、職員全体で支援を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーと連携を取って、情報交換等を行っており、良い関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族からは、終末期の希望を聞き取っており、重度化した場合や終末期の方針を説明している。また、看取りに関する方針もあわせて説明を行っている。	終末期の意向については、入居時に家族から聞き取っているが、入院や状態変化があった際には、その都度家族と相談している。家族の意向を第一に考慮した支援がある。	家族の意向のみでなく、利用者本人から意向を聞き出せるような支援も、今後の課題といえよう。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命法の受講や、勉強会などで急変時の対応について、全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施し、避難訓練を行っている。災害時の連絡方法について、災害時伝言ダイヤルの使用をご家族に説明を行っている。	外の倉庫に防災用品を備蓄している。災害時の伝言ダイヤルと避難場所がわかる書類を、家族へ配布する取り組みを継続している。家族からは、昨年と同様に2階利用者の避難について心配の声が上がっている。	階段の場所を含め、避難経路を来訪者にわかりやすく表示し、災害時の避難についての支援確立を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助や入浴介助等、プライバシーに大きくかかわる事柄については、その方の希望を尊重して行っています。また、否定的な受け答えをしないなどの対応を心掛けている。	トイレ誘導の声かけ時、職員は、利用者に寄り添って声をかけるなどプライバシーに配慮している。個人情報や重要な書類は事務所で管理して、個人情報漏えいを防ぐ仕組みが定着している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表せる方には、できる限り希望に添えるようにし、表せれない方にもこちらから提案したりと、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間も、その方のその日の体調に合わせて対応しており、職員の業務の流れに合わせたケアではなく、ご利用者の生活に合わせたケアを行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理美容を利用していただいたり、馴染みの美容院へ通っていただいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、一緒には行っていないが、好みに合わせた提供を心掛けている。また、外食の際には、メニューから好きなものを選んでいただいたりもしている。	調理職員が1階台所で一括して調理して、心のこもった手料理を提供している。おはぎ作りや抹茶会、梅ジュース作りなど、利用者が参加する機会がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形状などにも気を使い、必要に応じ介助をしながら、必要量を食べていただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの介助を行っている。また、提携の訪問歯科での口腔ケアを行っているご利用者もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態を把握し、ご家族とも相談しながら、オムツ等の使用について検討を行っている。	排泄チェック表で管理しつつ、声かけや、本人の行動を観察して誘導するなど、本人の状態に合わせて支援している。個々の誘導方法は新人職員にも伝えられており、統一した支援に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態などを考えたりして、排便のコントロールを試みてはいるが、便秘になってしまうご利用者については、医師と相談しながら薬剤等での対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に一度のペースは決めているが、その日の気分や体調によって日にちをずらしたりして、個々にあった入浴を行っている。	定期的に入浴する機会が持てている。ゆず湯や菖蒲湯など、季節に応じて入浴を楽しむ支援がある。湯船をまたぐのが不安定な利用者には、職員が2名で介助にあたり、安全に入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズム・体調・体力等を見て、日中に休息が必要な方には休息していただいている。朝も起きたい時間においていただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報は、すべてファイルしており、職員はいつでも確認できるようになっている。また、薬の変更があった場合には、看護職が連絡ノートに記載し、全職員が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなどの役割や、コーヒーやお菓子などの好み、楽しみをその人それぞれに合わせて提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店や外食、花見等の季節の行事のほか、買い物や散歩に行きたいなどの個々の希望にも応じて、外出を行っている。	利用者の要望に沿い、近所の散歩や買い物が日課となっている。桜の時期には開花に合わせてコースを変えるなど、季節の移り変わりを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これまでご自分で管理していただいていたケースもあったが、紛失や物盗られ妄想等のトラブルが多くなってきたため、普段は財布を預かり、外出の際にお渡しして支払いをしていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望される方はいらっしゃらないが、友人から掛かってきた場合には、取り次いだりし、手紙でのやり取りもできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に利用者とともに掲示物を作成し飾ったり、懐かしい音楽を流したりと、居心地よく過ごしていただけるよう工夫をしている。	テレビ前のソファや畳スペース、食堂は清潔で整理整頓されている。敷地内に畑があり、園芸部として数名の利用者が畑づくりに精を出している。訪問調査当日には、大根やジャガイモなどを見せてくれる利用者があり、畑が気分転換の場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席であったり、リビングスペースであったり、玄関先のベンチであったりと、その方が過ごしたい場所で、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者やご家族の好みに合わせて、居室内は飾っていただいたりしています。思い出の品を多数飾られたり、ご家族の写真を飾られたり、草木を飾られたりされています。	居室には、昔の写真や家族の写真、自分で作った作品などの掲示がある。本人自身で居室の管理ができない利用者については、衣類から貴重品まで職員が管理している。	自己管理ができない利用者についても、本人が安心して暮らせる居場所として、居心地の良い場所にする工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室の入り口には、大きな表札を掲げており、わかりやすくなっている。また、トイレや浴室、廊下にも手すりがついており、自立した生活が送れるようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500599		
法人名	株式会社 ボーベルカンパニー		
事業所名	グループホーム ひだまりの家 (2階やすらぎ)		
所在地	愛知県尾張旭市旭ヶ丘町旭ヶ丘5756の2		
自己評価作成日	平成25年 9月19日	評価結果市町村受理日	平成26年 1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kani=true&JjgvsyoCd=2374500599-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成25年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな立地を活かして、花や野菜を育てたり、近所を散歩したりと、季節の移り変わりを肌で感じながら毎日を過ごしていただいています。
お花見や夏まつり、紅葉狩りやもちつきなど季節の行事を行っており、その中でも、夏まつりやもちつきなどは、近隣の方々もお誘いし、いっしょに楽しんでいただいています。
利用者のご家族とも、行事に参加していただいたり、食事会などを開いたりして、交流の機会を持っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「我が家のようにつろげる、やすらぎのある生活を支援する」という、施設の理念を常に意識し、実践できるように心掛けています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏まつりなどの行事に、地域の方々にも参加していただいたり、地域の野外清掃へ参加するなど、交流の機会を持つようにしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の短大の実習生の受け入れや、学生との交流、オープンキャンパスでの施設見学。中学校の職場体験学習の受け入れなどを行うことで、地域への認知症理解への取り組みを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、運営報告会を行ったり、各種行事と併せて開催する際にはアンケートを取るなどして、意見を聞きとれるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際や、市役所窓口にて相談や情報交換などを行い、連携に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体構想に関するチェックシートを使用し、カンファレンスを行いました。それにより、全職員に身体拘束について改めて見つめ直してもらい、身体拘束を行わないケアが当たり前のケアだという認識を理解してもらっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束とあわせて、どのような行為が虐待にあたるのかを再度確認を行い、幅広く虐待というものをとらえて、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の対象となる利用者がいないため、実際には支援は行っていないが、研修への参加などで学ぶ機会を持って、いつでも対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時以外にも、疑問点には応えるようにしている。また、運営報告会等で必要事項については報告を行い、理解を得られるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、各種行事、面会時など、常に意見・要望を表せるようにしており、そこで聞かれた意見を運営に反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、申送り時に限らず、思った時にいつでも意見や提案をできるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より、代表者へ報告を行っており、職場環境・条件の整備に反映できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度より、法人内での勉強会や研修の実施に力を入れており、法人外の研修にも参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設への研修を行ったり、他法人の施設への見学等を行い、交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの聞き取りや、ご本人とのコミュニケーションを図ることにより、要望をサービスにつなげ、安心して生活していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での問い合わせや、見学に来られた段階から、要望や困っていることを聞き取り、入居後の不安を少しでも軽減できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、入居時に、ご本人・ご家族が必要としている支援を聞き取り、どのように支援していくのかを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の要望をよく聞き、ご本人の意思を第一とするように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来るきっかけとなるよう、ご家族が参加できるような行事を計画したり、電話・手紙等での現況報告を行い、共に考えてケアを実践できるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通いなれたスーパーへ買い物へ出掛けたり、外出の際に、思い出のある道や場所へ行ったりと、その方のこの地域との関係を継続できるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内での関係の支援はもとより、ユニット間での関わりを持てるよう、行事の際や普段の生活でも交流を持てるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから積極的に関係を継続させることはないが、良好な関係を継続しているご家族もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自身で意思を表せる方には、出来る限り希望を聞き入れるよう努めています。ご自分では表せない方には、ご家族の話などから、できるだけ本人本位となるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の生活歴を把握するため、ご家族に向けて、ご利用者の昔の様子についてのアンケートを行い、ケアに反映できるよう試みている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の状況に合わせて、食事時間の調整や嗜好に合わせたおやつ等の提供、その日の活動をその日の体調に合わせ、できないことを把握して支援を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画の変更まで行かない、比較的軽微なケア方法の変更なども、ユニットスタッフで検討し、ご家族とも相談しながら、ご本人のより良い生活の為に意見を出し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録表に、その日の気づきやご利用者のつぶやきなどを記入する欄を設け、職員間で情報の共有が行えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や入退院時、買い物等の送迎、付き添いや代行を行ったりと、できる限りの要望にこたえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張理美容や訪問マッサージの利用。ボランティアの演奏会など地域のサービス等を活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医以外に、かかりつけのクリニックや眼科があるご利用者には、受診の付き添いや送迎を実施しており、情報提供を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員がいるため、医療的な面では看護職を中心に、職員全体で支援を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーと連携を取って、情報交換等を行っており、良い関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族からは、終末期の希望を聞き取っており、重度化した場合や終末期の方針を説明している。また、看取りに関する方針もあわせて説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命法の受講や、勉強会などで急変時の対応について、全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施し、避難訓練を行っている。災害時の連絡方法について、災害時伝言ダイヤルの使用をご家族に説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助や入浴介助等、プライバシーに大きくかかわる事柄については、その方の希望を尊重して行っています。また、否定的な受け答えをしないなどの対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物へ行きたい等、希望を表せる方には、できる限り希望に添えるようにし、表せない方にもこちらから提案したりと、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間も、その方のその日の体調に合わせて対応しており、職員の業務の流れに合わせたケアではなく、ご利用者の生活に合わせたケアを行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理美容を利用していただいたり、入浴時に毛染めをしたり、衣類を一緒に買いに出掛けたりなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、一緒には行っていないが、好みに合わせた提供を心掛けている。また、外食の際には、メニューから好きなものを選んでいただいたりもしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形状などにも気を使い、必要に応じ介助をしながら、必要量を食べていただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの介助を行っている。また、提携の訪問歯科での口腔ケアを行っているご利用者もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態を把握し、ご家族とも相談しながら、オムツ等の使用について検討を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態などを考えたりして、排便のコントロールを試みているが、便秘になってしまいうご利用者については、医師と相談しながら薬剤等での対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に一度のペースは決めているが、その日の気分や体調によって日にちをずらしたりして、個々にあった入浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズム・体調・体力等を見て、日中に休息が必要な方には休息していただいている。朝も起きたい時間におきていただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報は、すべてファイルしており、職員はいつでも確認できるようになっている。また、薬の変更があった場合には、看護職が連絡ノートに記載し、全職員が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや畑仕事などの役割や、コーヒーやお菓子などの好み、楽しみをその人それぞれに合わせて提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店や外食、花見等の季節の行事のほか、買い物や散歩に行きたいなどの個々の希望にも応じて、外出を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これまでご自分で管理していただいていたケースもあったが、紛失や物盗られ妄想等のトラブルが多くなってきたため、普段は財布を預かり、外出の際にお渡しして支払いをしていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望される方には、時間帯などを考慮して掛けていただいたり、取り次いだりし、手紙でのやり取りもできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に利用者が昔作った刺繍の作品を飾ったり、懐かしい音楽を流したりと、居心地よく過ごしていただけるよう工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席であったり、リビングスペースであったり、マッサージチェアであったりと、その方が過ごしたい場所で、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者やご家族の好みに合わせて、居室内は飾っていただいたりしています。思い出の品を多数飾られたり、ご家族の写真を飾られたり、花を育てたりされています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室の入り口には、大きな表札を掲げており、わかりやすくなっている。また、トイレや浴室、廊下にも手すりがついており、自立した生活が送れるようになっている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	階段の場所も含め、避難経路を来訪者に分かりやすく表示し、災害時の避難についての支援確立を期待したい。	災害時の避難について、来訪者への対応を考える。	2階の階段の場所の表示、及び運営推進会議にて、避難方法等の説明を行う。	3ヶ月
2	26	生活歴アンケートを活用して、介護計画立案の取り組み事例を期待したい。	生活歴アンケートを活用した、介護計画作成に取り組む。	計画作成担当を始め、スタッフ全員で、カンファレンスの際に、生活歴アンケートを基にしたケアを実施出来るような立案が出来るようにしていく。	6ヶ月
3	33	家族の意向のみでなく、利用者本人から意向を聞き出せるような支援も、今後の課題といえよう。	利用者本人の意向を反映させたケアの実施。	意思表示がしっかりできる利用者から、意向を聞き取り、介護計画の立案及び、日頃のケアへ反映させていく。	6ヶ月
4	54	自己管理ができない利用者についても、本人が安心して暮らせる居場所として、居心地の良い場所にする工夫を期待したい。	利用者にとって居心地の良い場所を作る。	それぞれの利用者の特徴を把握し、居心地良く過ごせる環境を工夫する。	6ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。